

近年群馬県内で農福連携に取り組む事例が増えてきました。実際に農福連携を始めた生産者からは、「なるほど、こんな作業もお願いできるんだ」という声をよく聞きます。そこで、農福連携を実際に始めた生産者ならではの「なるほど」を集めて発信させていただきます。

今回は2021年から林福連携を始めた利根沼田森林組合の佐藤専務にインタビューをしました。森林組合さんでの林福連携事例はあまり多くないので貴重なご意見をいただきました。

## 森林組合も 林福連携で効率アップに

どのような作業を依頼していますか。

年間を通して世田谷区が運営している施設に出荷をする薪を束ねる作業をお願いしています。みなかみ町の福祉事業所と「一束で330円、年間1,500束程度」という契約を相対で結んでいます。

加えて、組合が扱っている積み木を磨く作業を依頼することもあります。

どうして作業をお願いしようと思ったのですか。

組合の作業員のみでは作業が終わらなかったからです。林福連携を始める前は、作業員が雨で現場の作業ができない時に行っていました。在庫が不足すると、晴れているのに作業員に薪を束ねる作業をしてもらわないと出荷に間に合わないことがあり、作業を請負ってくれるところを探していました。

その時に福祉事業所に作業をお願いできることを知り、知り合いの福祉事業所の職員さんに話をし、始めてみました。

↓福祉事業所の利用者が束ねた薪。



どのように作業を進めていますか。

束ねる薪が足りなくなったら福祉事務所に薪を届けに行き（月1回程度）、ある程度の束がまとまったら、薪の束を組合の倉庫においてもらいます（週1回程度）。作業スケジュールや、利用者さんへの指導は福祉事業所の職員の方に任せています。3年以上作業をお願いしているので、双方慣れて負担がない関係が築けていると思います。

作業をお願いしてよかったことはありましたか。

薪の在庫が安定して確保できるようになったことです。束ねた薪を組合まで運んでくれるため、お願いするようになってからは、出荷に間に合わないのではという心配をしたことは一度もありません。

また、作業が丁寧で、薪を綺麗に束ねて納品してもらっているので助かっています。束ねた薪を利用者さんが職員さんと届けにきてくれるのですが、その時に世間話をするのも楽しいですね。

他の林業団体さんにもおすすめてですか。

そうですね。ただ、林業ですと現場の作業がメインになってくるため、作業をお願いできることは限られます。その中でも分業できることをお願いすることで、組合にとってメインの仕事である現場の作業に集中できると思います。

当組合でお願いしている薪を束ねる作業は、年間を通して発生するため、組合で作業をするには負担が大きく、今後も引き続き作業をお願いしていきたいです。



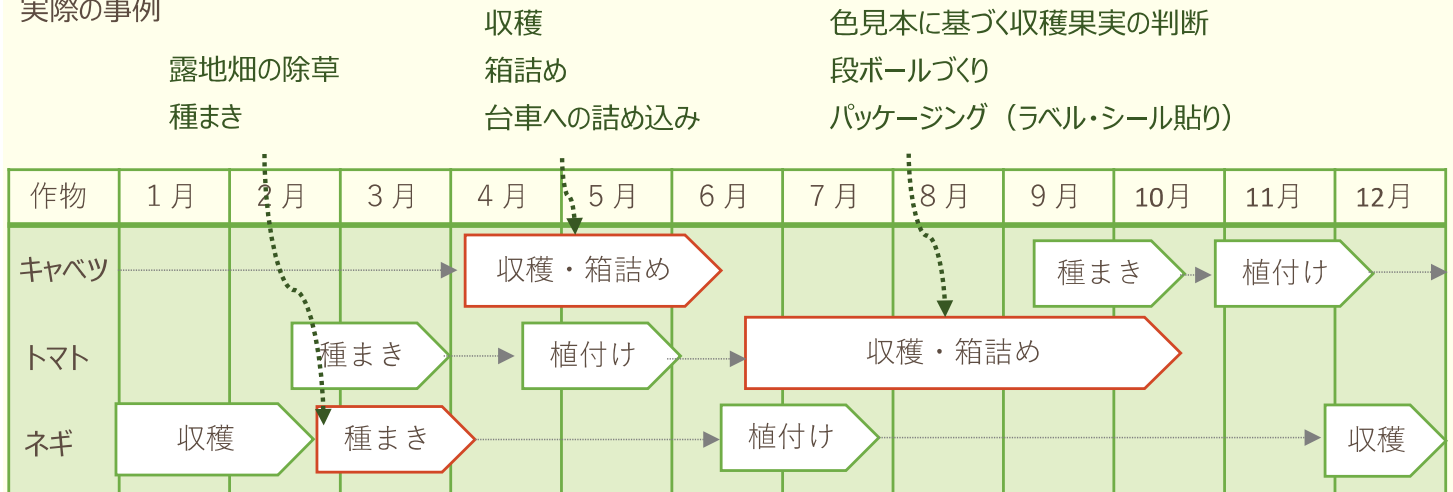
利根沼田森林組合：佐藤専務  
本所（群馬県川場村）  
沼田市・川場村・昭和村・みなかみ町において、森林整備や木材生産を行う

# ご紹介：農福連携とは

農福連携は、年間を通じた委託が難しい場合でも、福祉事業所との相談により短期間・特定の作業のみを依頼することが可能です。

**農福連携とは...** 障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。農福連携に取り組むことで、障害者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる可能性もあります。  
(農林水産省HPより)

実際の事例



## JA・農林中央金庫（前橋支店）にご相談いただいた場合の流れ

### ①JA・農林中央金庫へご相談

農福連携に興味があれば、群馬県内のJA農福連携相談窓口または農林中央金庫前橋支店へご相談ください。

### ②福祉事業所へ依頼

場所・業務内容から対応可能な福祉事業所へ依頼します。

### ③打合せ

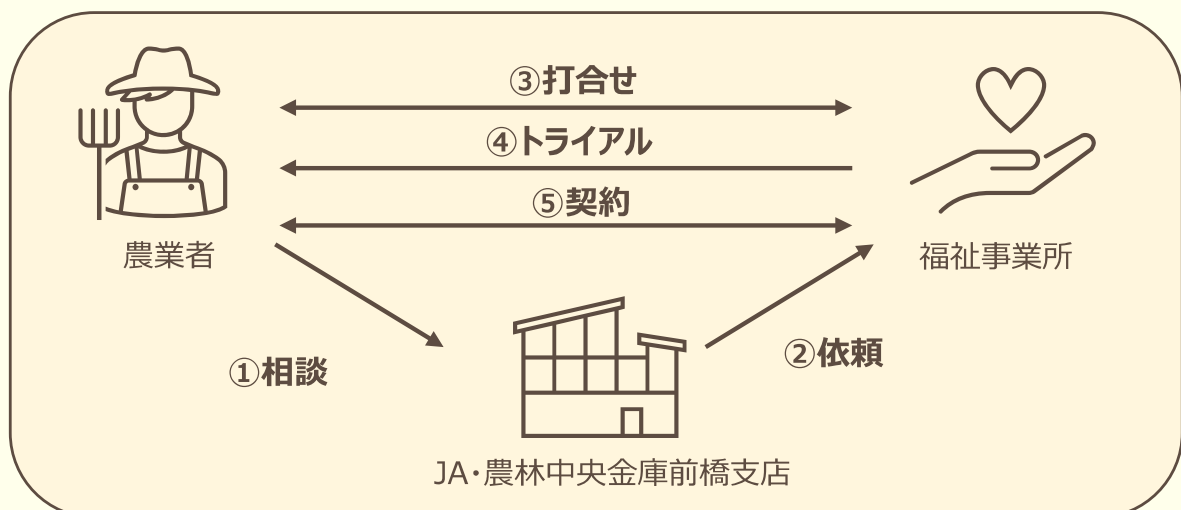
現地、作業内容、契約までの流れの確認を行います。

### ④トライアル

福祉事業所の指導スタッフが農作業を体験して作業の適否を判断した後、障がいのある人が試行的に作業をして農業者が作業を依頼するか判断します。

### ⑤契約

作業単価の検討や作業期間を調整し契約を結びます。



～農林中央金庫前橋支店では群馬県内の農業者と福祉法人のマッチングをサポートしています～

近年群馬県内で農福連携に取り組む事例が増えてきました。実際に農福連携を始めた生産者からは、「なるほど、こんな作業もお願いできるんだ」という声をよく聞きます。そこで、農福連携を実際に始めた生産者ならではの「なるほど」を集めて発信させていただいております。今回は林福連携の作業受託をされている障害福祉サービス事業所びっころさんにインタビューをしました。事例の少ない林福連携の福祉事業所側の取り組みや利用者の実際の声を伺うことができました。

## 林福連携で利用者に 新たな繋がり・楽しみを

事業所の概要について教えてください。

平成13年に小規模作業所として設立し、5名の利用者から始まりました。平成29年からはB型事業所として運営しています。現在は20名の利用者さんが所属していて、そのうち18名が知的障がいの方です。利用者さんは、主に受託作業と自主商品の製作を行っています。

①受託作業…公共施設の清掃作業

昆虫ゼリーの詰め合わせなど

②自主商品の製作・販売…パンや木工品など

どのような作業を行っていますか。

森林組合さんから運ばれてきた木材を「箍（たが）」で組み込む作業や、その組み込んだ薪を森林組合さんの倉庫に納品する作業を1日で行います。20名いるうちの5〜6名がローテーションで作業を担当するのですが、全員がこの作業に関わります。



林福連携を行う前後でのギャップはありましたか。

利用者さんが思いのほかこの作業を気に入ってくれたことです。納品作業が気分転換にもなっているのだと思います。

また、夏は暑く、冬は寒いのですが、楽しく作業に取り組んでいることもギャップかもしれません。

どのような工夫をされていますか。

利用者さんが取り組みやすいように支援者（事業所職員）側で段取りを組むことです。作業工程（木材を組む作業・納品作業）ごとに利用者さんの向き不向きがあるので、得意分野に合わせた作業分担を行うようにしています。

「苦手だから」「障がいがあるから」という

てお願いをしないわけではありません。組んでもらった木材を支援者側で手直したり、利用者さんが木を組みやすい位置に木材を動かすなどの工夫を行うことで、どんな障がいの方でも作業ができるようにしています。



林福連携によるメリットや効果はありましたか。

林福連携は、木材が運ばれてからそれを自分たちで工夫して形にし、お客様に届くまでのプロセスを実際に目で見るができます。そのため、利用者さんは達成感や社会に役立っているという実感を得ることができるといいます。また、森林組合の職員さんとの関わりを通じて、全く異なる分野の体験ができます。森林組合の職員さんからも「助かるよ」という声をいただいております。利用者さんにとっても嬉しそうだし、実際に「楽しい、薪の作業をやりたい」という声が上がっています。

林福連携検討中の事業者様へのメッセージをお願いします。

林福連携は利用者さんにとっても関わりやすい取り組みだと思いますので、気になる方はぜひやってみることをおすすめします。やってみると利用者さんも楽しく取り組んでくれると思います。また、事業所と森林組合さんとの関わりもできますので、お互いに新たな発見ができ、業務委託の幅も広がっていくのではないのでしょうか。



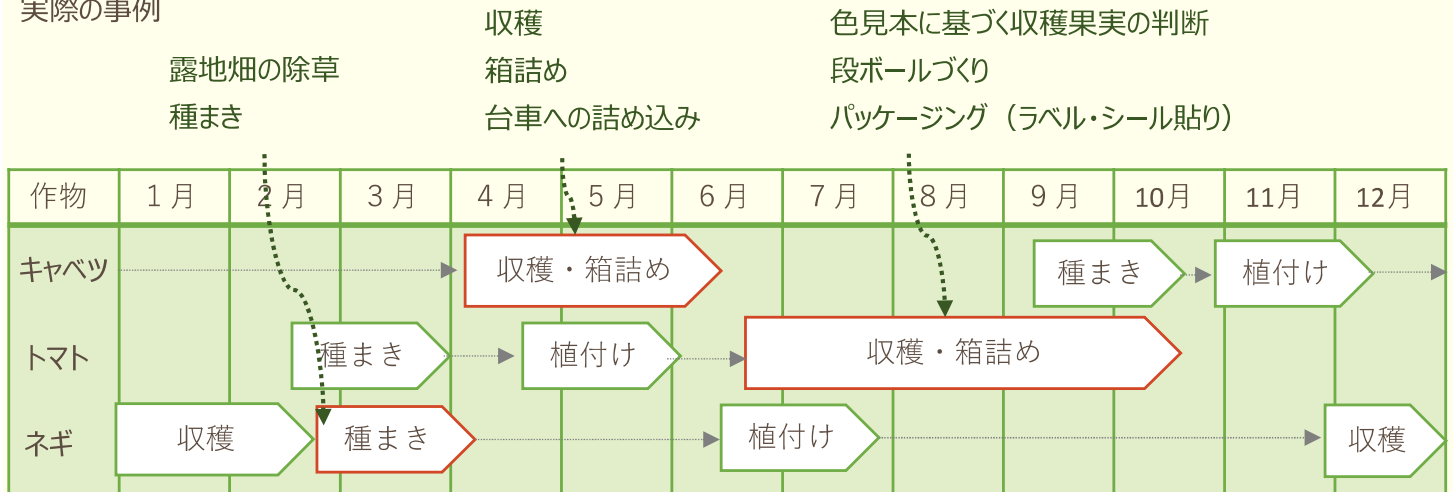
障害福祉サービス事業所びっころ：  
河合係長  
群馬県みなかみ町の就労継続支援B型事業所  
受託作業や、パン・クッキー等の自主商品の制作・販売を行う

# ご紹介：農福連携とは

農福連携は、年間を通じた委託が難しい場合でも、福祉事業所との相談により短期間・特定の作業のみを依頼することが可能です。

**農福連携とは...** 障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。農福連携に取り組むことで、障害者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる可能性もあります。  
(農林水産省HPより)

実際の事例



## JA・農林中央金庫（前橋支店）にご相談いただいた場合の流れ

### ①JA・農林中央金庫へご相談

農福連携に興味があれば、群馬県内のJA農福連携相談窓口または農林中央金庫前橋支店へご相談ください。

### ②福祉事業所へ依頼

場所・業務内容から対応可能な福祉事業所へ依頼します。

### ③打合せ

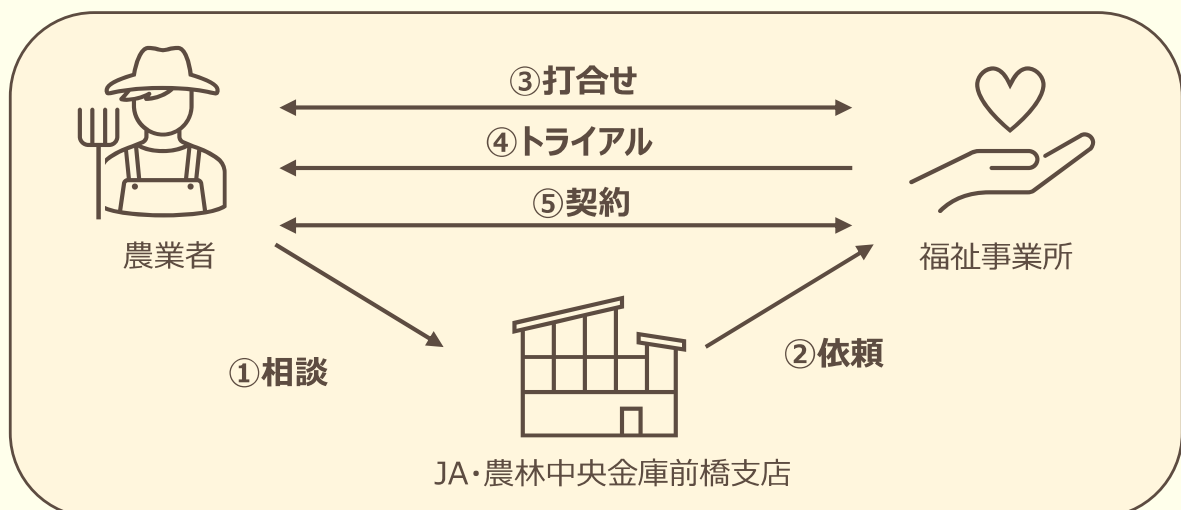
現地、作業内容、契約までの流れの確認を行います。

### ④トライアル

福祉事業所の指導スタッフが農作業を体験して作業の適否を判断した後、障がいのある人が試行的に作業をして農業者が作業を依頼するか判断します。

### ⑤契約

作業単価の検討や作業期間を調整し契約を結びます。



～農林中央金庫前橋支店では群馬県内の農業者と福祉法人のマッチングをサポートしています～